

オリパラ共同利用
ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設
競技施設等必須要件

競技	競技施設等必須要件
<p>【オリンピック競技】 スキー（アルペン） スキー（スノーボード／ パラレル大回転）</p> <p>【パラリンピック競技】 アルペンスキー</p>	<p>(1) 競技施設要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12月から3月までの期間、ヨーロッパの大会で多くみられる固い雪質に類似した競技環境を安定して維持できること（競技環境として整備した雪質が維持されるために、平均気温が低くかつ晴天率が高い（降雪量が少ない）ことが望ましい） ・ ベースとなる競技練習環境の標高が1,200m以上の場所であること。 ・ 専用の人工降雪機を備えていて、12月から3月までの期間5コース以上を設けることができること。 ・ 国際スキー連盟公認コースまたはそれに準じるコースを有すること。 <p>(2) 付帯施設要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす使用者の利用に配慮した宿泊施設がスキー場から概ね半径5km以内にあること。 ・ 年間を通じてマネジメントスタッフ等を配置し、常駐できる執務スペースを確保できること。 ・ 年間を通じてトレーニング機材等を保管でき、高地トレーニング、フィジカルトレーニングを行うことができるグラウンド、体育館等の設備を有すること。 <p>(3) 付帯設備要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内に車いす使用者向けのトイレを備えていること。 ・ 車いす使用者に配慮した設備を有していること。

オリンピック競技
ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設
競技施設等必須要件

競技	競技施設等必須要件
<p style="text-align: center;">スキー (フリースタイル／ス ロープスタイル・ビッグ エア)</p> <p style="text-align: center;">及び</p> <p style="text-align: center;">スキー (スノーボード／スロ ープスタイル・ビッグ エア)</p>	<p>(1) 競技施設要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏期の練習環境として、国際スキー連盟の公認であるレベルA規格（テイクオフからランディングの距離が15m以上）のビッグエアジャンプ台に準じる設備を有すること《ビッグエア》。 ・夏期の練習環境として、6m程度に及ぶレールのジブ・セクションを有する練習環境があること《スロープスタイル》。 ・夏期の練習環境として、今後の世界大会等において主流になることが見込まれる新形状のアール（※）を有するキッカーに対応できる練習環境を有すること《スロープスタイル》。 ※真正面からではなく斜めからアプローチする仕様のジャンプ台。 ・世界の男子選手の潮流となっている、1620（4回転半）等の演技を安全に習得するための夏期練習用のエアバックを施設内に有していること《スロープスタイル・ビッグエア共通》。 <p>(2) 付帯施設要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じてマネジメントスタッフ等を配置し、常駐できる執務スペースを確保できること。 ・ウエイトトレーニング等を実施することが可能なトレーニングルームとなりうるスペースを有していること。 ・バランス感覚を養うための補助練習（スケートボード、スラックライン、トランポリン等）が実施できる施設を有すること。 <p>(3) 付帯設備要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間練習用の照明設備を備えていること。
<p style="text-align: center;">スキー (フリースタイル／ハ ーフパイプ)</p> <p style="text-align: center;">及び</p> <p style="text-align: center;">スキー (スノーボード／ハ ーフパイプ)</p>	<p>(1) 競技施設要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際スキー連盟公認コースまたはそれに準じるコースを有すること。 ・世界トップレベルの高回転や高難易度の技を安全に練習することができるバグジャンプと呼ばれるエアバックでの練習設備を有していること。 <p>(2) 付帯施設要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設がスキー場近隣にあること。 ・年間を通じてマネジメントスタッフ等を配置し、常駐できる執務スペースを確保できること。 ・バランス感覚を養うための補助練習（スケートボード、スラックライン、トランポリン等）が実施できる施設を有すること。 ・施設内に酸素トレーニング、ウエイトトレーニング等が可能なトレーニングルームを有していること。